

令和5年度 山口県立岩国高等学校坂上分校 学校評価書 校長(竹村 和之)

<p>1 学校教育目標</p> <p>【分枝訓】 円成(えんじょう): 笑顔絶やさず、協力して、物事を最後まで成し遂げる</p> <p>【スクール・ミッション】 生徒一人ひとりの個性を生かし、地域・社会と連携・協働したキャリア教育等を通して、互いを認め、他者と協働して、主体的に地域・社会に貢献するとともに、豊かな人生を切り拓いていく人材を育成する。</p> <p>【教育方針】 知・徳・体・情の調和的発達を図り、自主性、社会性に富む心身共に健全な人間を育成する。</p> <p>【めざす学校像】 1 思いやりのある心豊かな生徒を育成する学校 2 主体的にキャリアを形成する力を育成する学校</p> <p>『町の小さな進学校』 ・地域行事への参加や地域連携教育を活用したキャリア教育の充実を図る。 ・基礎・基本を大切に学力の向上を図り、生徒一人ひとりの進路希望の実現をめざす。</p>
--

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>《学校運営》 ○昨年度は年間を通して学校Webページや学校広報誌による情報発信に継続して取り組み、保護者や地域との関係づくりに大きな成果があった。今年度は、神楽等の地域の伝統継承活動を中心とした地域連携を推進し、開かれた学校づくりに取り組む。</p> <p>《教務》 ○「学習習慣の定着」は前年度の達成度4であり、具体的方策が有効だったと分析する。「読書活動の推進」は前年度末の達成度4であるが、生徒の読書活動の活性化がさらに求められる。「資格取得指導の充実」は前年度の達成度3ながら、生徒の積極的な受験姿勢は評価できる。</p> <p>《生徒指導》 ○よりよい人間関係づくりを身に付けさせ、いじめの未然防止につながるような活動(AFPYやいじめ予防教室等)を行っているが、人間関係の形成に悩む生徒が数名存在する。また、場や時に応じた言葉遣いや身だしなみ、スマホの使い方等の指導を全校体制で行っている。</p> <p>《進路指導》 ○アンケートによる生徒の満足度や3年生の進路決定の状況から、進路指導の取組は体系化されており、全教員で指導ができていると言える。昨年度からはインターンシップや体験授業が再開し、3年間を通じた総合的な探究活動などによりキャリア教育の充実ができている。</p> <p>《学年》 (1学年) 17名のうち12名が美和中学校、4名が岩国中学校、1名が平田中学校出身の生徒である。自然体験を通して、クラスメイトが交流することができた。これをきっかけにこれからの学校生活で良い人間関係を構築してもらいたい。中学時代には、学校に行きづらさを感じていた生徒も、欠席せずに登校しているなど、生徒間、教員との距離が近い小規模の良い環境の中で、大きく成長してほしい。 (2学年) まじめで節度と思いやりのあるクラスで、学習への取り組みもよく安定した学校生活を送っている。一方で、内気で積極性に欠ける一面もある。2学年に進級したことを受けて、下級生に対するリーダーシップの発揮が望まれる。クラスや学校全体の中でできる行動や声掛けを行うことを意識させたい。 (3学年) 資格取得や各種検定試験に取り組み、多くの生徒が合格した。クラス全体で資格取得やボランティア活動を推進していく環境を作っていく。また、自主学習ノートに取り組みせ、自立した学習習慣を確立させる。進路実現のために、個人面談を通して一人ひとりに支援をしていく。保護者や外部関係機関とも連携を密にする。</p> <p>《業務改善》 ○教職員の時間外在校等時間の平均が19時間40分と比較的良好である。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>【本年度重点を置いて取り組む目標】 1 基礎的・基本的な学力の定着と生きる力を育む授業の推進 「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学び」 2 豊かな心や社会性を育む教育活動の推進 「総合的な探究の時間」等を活用したキャリア教育、地域の教育資源を活用した体験的な学習、地元小中学校と連携した取組等 3 坂上分校の魅力の創造とその積極的な発信</p> <p>【生徒会チャレンジ目標】 「凡事徹底」</p>

4 自己評価					5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等 評価
学校運営	開かれた学校づくりの推進	「坂校だより」の毎月の発行、ホームページの定期的な更新、学校行事の報道機関への通知等を通して、地域や保護者への広報活動を活発にする。	アンケートで「学校は必要な情報を提供している」と回答した保護者の割合が、 4 85%以上であった 3 75~84%であった 2 65~74%であった 1 64%以下であった	4	学校教育アンケートでは、「坂校だより」やホームページによる情報発信の取組が評価され、それらを通じて88%以上の保護者が「学校は必要な情報を提供している」という回答をいただいた。ただし一部に、学校からの配付物が保護者の手に渡っていない状況もあるので、今後改善に取り組みたい	A
	地域と連携し、地域の活性化に貢献する学校づくりの推進	神楽等の地域の伝統継承活動に授業で取り組むほか、地域行事へのボランティア等での参加を通して、地域理解を深め、地域に貢献する人材を養う。	アンケートで「学校は地域との連携に努めている」と回答した保護者の割合が、 4 85%以上であった 3 75~84%であった 2 65~74%であった 1 64%以下であった	4	神楽の継承活動、岸根栗研究などの取組が地域にも浸透し、保護者アンケートでも「学校は地域との連携に努めている」という肯定的な回答が95%以上と多い。これらの取組を通じて、引き続き生徒の中に地域を愛する心を育む教育に取り組みたい。	
	『指導と評価の一体化』のための学習評価へ取り組む	『指導と評価の一体化』のための学習評価について各教職員が理解し、適切な学習評価に取り組む。	学習評価に関する検証・見直しを、 4 4回以上実施した 3 3回実施した 2 2回実施した 1 1回以下であった	3	新しい学習評価が導入され2年目となる。この間、教務部が中心となり、継続的に校内研修を実施している。PDCAサイクルにより、評価方法の見直しを進めつつ、教職員で共通理解を図りながら、引き続き評価の精度を高めた。	
教務部	学習習慣の定着	家庭学習の習慣が身に付くよう指導し、「マナトレ」や、生徒の学力に合った学習課題を課すことで、家庭学習時間が増えるようにする。	アンケートで、「家庭学習の習慣が身に付いている」と回答した生徒の割合が、 4 65%以上であった 3 55~64%であった 2 45~54%であった 1 44%以下であった	4	2学期末実施の「学校教育アンケート」で「家庭学習の習慣が身に付いている」と回答した生徒の割合は86%(昨年度87%)で、家庭学習の習慣が維持できている様子がわかる。HRで行っている基礎学習「マナトレ」や、各教科からの学習課題がうまく機能している。	B
	読書活動の推進	コモンホールの図書を活用し、「図書だより」の発行、学級文庫の設置、「ライぶらり」企画等を行うことで、読書の楽しさを実感させ、より多くの書物にふれさせる。	「図書だより」で紹介されたコモンホールの図書の冊数が、 4 50冊以上であった 3 40~49冊であった 2 30~39冊であった 1 29冊以下であった	3	「図書だより」での紹介図書は49冊で、あと1回発行予定。生徒同士による本の紹介企画「ライぶらり」の年3回実施で、「コモンホールにはこんな本があったのかと知ることができた」「いろいろな本を見ながら、(普段読むのと)違うジャンルにも自分が読めると思える本があったので、これからはいろいろな本を読みたい」「本の面白さを知れた。」「翌日から積極的に興味がある本を借りて朝読で読んだ」等の感想が出た。また、2種の読書感想文コンクールに2名が入選した。	
	資格取得指導の充実	資格取得の意義を頻繁に伝え、取得に向けた課外や指導を実施し、資格取得を奨励する。	全校生徒数に対して、2学期末までの資格合格者総数の割合が、 4 50%以上であった 3 40~49%であった 2 30~39%であった 1 29%以下であった	1	2月までに、3種類の資格試験(英検、ビジネス文書実務検定、危険物取扱者)に対し16名が受験し、12名が合格。合格率は75%(昨年度46%)で、全校生徒数に対する割合は26%であった。漢字検定は、協会の決めた受験定数を集めなければ試験の学校実施ができず、生徒の受験希望が叶えられないような状況となっている。	

生徒指導部	自立(律)心を育む生徒指導の充実	自ら考え、その「場に応じた最適な判断」について考える機会を、全校集会やLHRで設ける。	アンケートで「学校は自立心を育むような指導をしている」と回答した保護者の割合が、 4 90%以上であった 3 70～89%であった 2 50～69%であった 1 49%以下であった	4	2学期末実施の「学校教育アンケート」では、保護者の肯定的回答の割合は97.7%で、昨年度の95.5%から上昇しており、保護者の方々のご協力の賜であると感じた。進路実現に向け、引き続きルールの意味などを細かく指導していきたい。 次年度以降も声かけ指導や服装頭髪指導などの際には個々に働きかける方法を考えていきたい。	○生徒の自立心の高まりを感じることでできる。少人数の良さを活用した特別活動に引き続き取り組んでほしい。 ○スクールカウンセラーや教育相談がうまく機能し、いじめ等の早期発見や、生徒の心のケアへの取組ができています。 ●生徒の学校外での状況や、表に見せない悩み、SNSの利用実態などの把握に努めてほしい。	A
	安心・安全な学校教育の推進	教育相談や、日々の学校生活を観察し、いじめ予防や早期発見を心がける。スクールカウンセラーや外部機関との連携を図る。	アンケートで「学校はいじめの早期発見、早期対応に努めている」と回答した保護者の割合が、 4 90%以上であった 3 70～89%であった 2 50～69%であった 1 49%以下であった	4	2学期末実施の「学校教育アンケート」では、保護者の肯定的回答の割合は97.7%で、昨年度の90.9%を上回った。 生徒間のトラブルには迅速に対応できたと感じているが、引き続きスクールカウンセラーと連携をとりながら、各生徒の発達段階に応じた指導や合理的配慮に心がけ、トラブルの未然予防に努めたい。		
	保健指導の充実	毎朝の健康観察や学校生活の状況から生徒ひとり一人の心身の健康状況把握に努め、適切に対応する。 保健だよりや掲示物にて、心身の健康に関する意識の向上に努める。	アンケートで「保健だよりを興味を持って読んでいる」と回答した生徒の割合が、 4 60%以上であった 3 50～59%であった 2 40～49%であった 1 39%以下であった	4	2学期末実施の「学校教育アンケート」では、生徒の肯定的回答の割合はほぼ横ばいで65.1%であった。また、保護者の肯定的回答の割合は88.4%と高かったため、生徒が保護者向けの配布物と感じているのかもしれない。引き続き、生徒の健康課題に沿った情報を発信しながら、配布時にも工夫を取り入れて、生徒保護者共に発信している情報であることを呼び掛けたい。		
進路指導部	生徒の個性を尊重した進路指導の充実	各学期ごとの進路希望調査や個別面談を実施し、生徒の適性を踏まえた指導・助言をする。	アンケートによる生徒の満足度が、 4 85%以上であった 3 75～84%であった 2 65～74%であった 1 64%以下であった	4	アンケート結果では、「進路に関する面談や個別指導が十分に実施されている」という肯定的回答が生徒、保護者ともに95.3%であった。全学年毎学期ごとに進路希望調査を行い、担任、進路指導部、就職サポーター等との面談、個別指導を適宜行うことができている。	○担任、進路指導部、就職サポーター等との面談が早い時期から実施されており、3年生の進路決定に対する意識がうまく醸成されているといえる。	B
	キャリア教育の視点に基づいた進路指導の充実	年間計画、全体計画に基づいた進路学習を実践するとともに、工夫・改善する。	アンケートで「『総合的な探究の時間』が進路実現に役立っている」という生徒の回答が、 4 85%以上であった 3 75～84%であった 2 65～74%であった 1 64%以下であった	4	アンケートでは、「総合的な探究の時間が進路実現に役立っている」という肯定的回答が生徒90.7%、保護者88.4%という結果で、探究活動が進路に対する意識を高めることに役立っている。	○外部講師を活用したキャリアセミナー、講演が数多く開催されているのがよい。 ●家庭で生徒と保護者が進路について話すきっかけとなる取組を考え実践してほしい。	
	進路意識を高めるための情報発信の充実	総合的な探究の時間や、進路に関する掲示物、毎学期発行する「進路便り」等を通して、進路を探究するよう努める。	アンケートで「進路について考える機会が増えた」という割合が、 4 85%以上であった 3 75～84%であった 2 65～74%であった 1 64%以下であった	2	アンケートでは、「進路について話す機会が増えた」という肯定的回答が生徒72.1%、保護者90.7%という結果で、保護者ほど生徒は進路について家庭で話す機会が持っていないと考えていることがわかる。各学年の進路目標に合った情報を発信する機会を増やし、保護者に伝えるよう促す必要がある。		
1学年	生徒にとって居心地のよい環境をつくる	面談や学校行事を通して、お互いを尊重しあう心を醸成するとともに、SC・支援員・教職員と連携をとりながら1学年の学校生活を守る。	アンケートによる達成率が、 4 80%以上であった 3 60～79%であった 2 45～59%であった 1 45%以下であった	3	年度初めはこれからの学校生活に少し不安があったが、スクールカウンセラーとの全員面談や、日頃の先生方の声かけのおかげで、生徒は安心して学校生活を送れていた。また、前向きに学校に来る生徒が多く、学校行事も意欲的に取り組み活躍する姿がみられた。	○生徒が有意義で安定した学校生活を送っているようすが窺える。引き続き生徒の力を伸ばす取組をお願いしたい。	B
	基礎学力の定着	終礼時にマナトレ等を利用し、学習習慣を確立させるとともに、基礎学力を向上させる。	学年末に行う基礎力診断テストが入学時の結果よりも改善した生徒が 4 80%以上であった 3 60～79%であった 2 45～59%であった 1 45%未満であった	3	中学校の時よりも勉強し、学習習慣が身に付いたという生徒が多かった。しかし、課題を期日までにすることが難しい生徒も、粘り強く指導していきたい。2年生では授業がコースに分かれ、インターシップ等もあるため進路意識を高めつつ、学ぶ姿勢も育てたい。	●平素の学習習慣がさらに醸成されるよう、計画的な学習課題を設定するなど取り組んでほしい。	
2学年	学校全体を考えた主体的な取り組みを意識させる	学習や課題を通して、主体的な提出物の管理や学習の調節を促す。また行事や生徒会活動における積極的な取り組みや、他学年の生徒を配慮した行動を意識させる。	アンケートを実施し、「提出物の締め切りを自分で把握できた」「他学年の生徒のために行動できた」の設問に対する肯定的回答の割合が 4 85%以上であった 3 70～84%であった 2 55～69%であった 1 55%未満であった	3	アンケートの結果、「提出物の締め切りを自分で把握できた」の設問に対する肯定的回答が80%、「他学年の生徒のために行動できた」の設問に対する肯定的回答が70%であった。集団生活の中でのふるまいを意識し、主体的な取り組みができています。	○提出物の締切を守る等、わかりやすいところから生徒自身の主体性を高める取組は評価できる。 ●進路に対する意識を次学年まで継続させる具体的な取組を考えてほしい。	B
	進路実現のための準備を行う	総合的な探究の時間での調べ学習やインターシップを通して、社会人として必要な能力を養うとともに、労働や社会貢献についての理解を深め進路意識の涵養を図る。	アンケートで「進路希望先を決定した」と回答した生徒の割合が、 4 85%以上であった 3 70～84%であった 2 50～69%であった 1 49%以下であった	3	アンケートの結果、「進路希望先を考えた・決定した」の設問に対する肯定的回答が70%であった。まだ社会人として働くことが十分に想像できていない生徒もいるが、インターシップに対する取り組みは積極的で、労働や社会貢献に対して意識が向いている。		
3学年	進路実現	個人面談を行い、生徒一人ひとりの希望を把握し、適切な支援を行う。	進路が決定した生徒の割合が 4 90%以上であった 3 80～89%であった 2 70～79%であった 1 70%未満であった	4	各生徒の努力と、きめ細やかな担任の個人面談と進路指導と連携した個人指導が行われ、18人中17人の進路が決定した。1人の生徒は、就職活動の負担が大きかったようで、卒業を目標に努力した。担任をはじめその生徒を支援し、卒業できることになった。	○生徒一人ひとりに対し、個別最適な進路指導が行われていると感じる。 ○学校行事を通して、クラスの一体感と、生徒自身の成長が感じられる。	A
	生徒の自律を支援する	資格取得や各種検定、ボランティア活動への参加を促す。自主学習ノートなどの取り組みを支援する。	年度末にアンケートを実施し、実行できた割合が 4 80%以上であった 3 65～79%であった 2 50～64%であった 1 49%未満であった	3	1学期はそれぞれの進路のため資格取得や、各種検定に努力をしたが、進路決定後は、その意欲が低下したことは否めない。また、学習に関しても同様に、2学期以降の動機づけに工夫が必要だと思う。	●進路決定後、生徒の意識がどのように変化したかを再確認してほしい。	
	「円成」を体現する人格形成	学校行事を通して、クラスがまとまり、各自の役割を果たせるよう支援する。	年度末にアンケートを実施し、実行できた割合が 4 80%以上であった 3 65～79%であった 2 50～64%であった 1 49%未満であった	4	1学期は文化祭、2学期は体育大会と大きな行事には、全員が一丸となって行事を成功させた。クラスのまとまりだけでなく、1・2年生の手本となる行動ができ、今後の指針となった。		
業務改善	時間外業務時間の削減を推進し、教員の健康維持を目指す。	時間外業務上限である1箇所45時間及び1年360時間内の勤務とする。業務量によっては臨時的に1箇所100時間及び1年720時間内の勤務とする。(ただし要件を満たすこと)	昨年度に比較し、平均時間外業務時間が減少した教職員が 1 40%以上いた。 2 30%以上いた。 3 20%以上いた。 4 20%未満であった。	4	本校教職員の時間外業務時間は、月あたりの平均が15時間3分と少なく良好である。引き続き、ワークライフバランスに留意し、健康維持に努めるよう共通理解を図る。	○教職員の健康維持が学校運営の根源であると思うので、引き続き時間外業務時間の削減に取り組んでほしい。	A

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

- 【成果】
- 《学校運営》
- 坂上分校神楽クラブの結成と活動、特に「神楽甲子園」への出場が各メディアで大きく取り上げられ、生徒の自己有用感が大きく高まった。また、活動を通じて地域連携が、より一層深まった。
 - 昨年に引き続き、第2回学校運営協議会を坂上分校を会場に行い、学校運営協議会委員に加え、地域の有識者に参加していただいた結果、様々な角度から貴重な意見や提言を聴くことができ、今後の学校運営を進める上でとても参考となった。
- 《教務》
- 昨年度から継続して生徒の家庭学習への取組が伸びている。「マナトレ」や各教科毎の課題の設定など、学校全体で取り組んだ結果であるといえる。
- 《生徒指導》
- 教育相談や、生徒面談等を通じて個々の状況や悩みなどに寄り添い、安心安全な学校生活を営むことができるようにすることができた。
- 《進路指導》
- 全教員が連携し、ハローワークや上級学校、民間企業等の関係機関とも協力しながら全校体制で進路実現に向けた指導を行うことができた。
 - インターンシップ、学校・職場見学等の再開によりキャリア教育が充実でき、岸根栗、神楽をはじめ、美和地域についての探究活動による地域連携が深まった。
- 《業務改善》
- 昨年同様、本校教職員の時間外業務時間は少なく推移しており良好である。各教職員が自覚を持ってワーク・ライフバランス考え職務に取り組んでいる成果である。
- 【課題】
- 《学校運営》
- 小中高が連携した教育活動機会が少ない。
- 《教務》
- 生徒の資格取得への取組をさらに活性化し、主体的に学習に取り組む態度を醸成する。
- 《生徒指導》
- 自ら考え、その「場に応じた最適な判断」について考える機会を引き続き設けることで社会人としての素養を身に付けさせる。
 - 「報告・連絡・相談」等、適切なコミュニケーションなど人間関係を形成することが苦手な生徒が多く、それをいかに克服させるかが今後の課題である。
- 《進路指導》
- 家庭との連携と、早い段階から生徒の進路意識を高めることが引き続きの課題である。
- 《業務改善》
- ICTや生成AIを適切に導入し、更に業務改善を進める。

6 次年度への改善策

- 《学校運営》
- 坂上分校の特色となる地域連携教育のさらなる充実とその取組を発信することを心がけ、開かれた学校づくりをさらに推進する。
 - 生徒のタブレット端末活用を視野に、SNSによる情報発信にも取り組む。
- 《教務》
- 生徒の資格試験への取組を引き続き促進し、就職や進学を見据え、主体的な資格取得の実現をはかる。
 - 生徒に、より一層家庭学習の習慣が身に付くよう、教科を横断し学校全体で計画的に課題を出すなどの工夫を行う。
- 《生徒指導》
- 場や時に応じた言葉使いや身だしなみ、スマホの使い方等に関して、ルールの意味を考えさせるような指導を全教員で行う。
 - 生徒が他者との協働活動を通して自他ともに成長していくことを促し、あわせてよりよい人間関係を構築する力を身に付けさせる。
- 《進路指導》
- 各学年の進路実現に向かう段階にあったキャリア教育の実践、情報提供、地域と連携した探究活動をさらに充実させる。
- 《業務改善》
- ジョブローテーション等、教職員が多くの経験を積む機会を増やし、協力して職務を遂行することを通して、チーム力を高める。